竹取物語

十七条試験

へ13
3052
6

京山作
豊國画

弁取物語 十二編
京山作 豊國画
乙酉春 錦壽堂 梅

特
へ13
3052
6

きよ川

さる寿丸

つぎ
きよ
下女
八

きよ川
おせん
十三

梅若
きよ三

あせん
桂美

きくの川
きくの助左

良さ寸ろ
(二)かんざうのぜん
(三)
(四)
(五)

おせん
お七
さよ川
(六)

八段目

九段目

つぎ
さる酒屋女房
三どのつとめ
つもこ〜や
小やま

武内

小安

おせん
きよ川
梅美

文房小安

山東菴京山作

一陽齋豊國画

つぎ　老をふきるゑのかり　小安
ゆも　女房のこゝろのめつるぞふ
きもこゝ　月日ゑさもけり

●かくて百の八ゆ二百ゆそもも
きさりもんぢゝゆめでうく
ぜんてるのゝとのゝもゝとゝさうせ
るれうこゝあすこの人ふゆく
ろをゝゆ熱を小安ゑゆも
つまゆひとてゝをゝもゝ
けれゆゝてりのひとゆひゝし

●ゑまうゝゝたゝるよ行ひめ
ゆゝゑゝさゝゆんのゆゆふ安
ふゝゆゝふゆゝうゝゆゝ
行ゆゝふゆゝうゝゆゝ十二
ゑゝまゝ巳行ゆ一ゆのゝゝ
つゝきゝうゝゆゝものゆゝうゝゝく

おのを今年も例の書様ちふ燈仕て拙き年もいとまれく
新ふ軒の春ようさもふ著かりの夜ようり次の書案でもるれど
ちとばかり飲ふ色ふこゝもとて謝辞深がいまゝ見もうもつまれて窮ふ
ゆゝ孫ようり春ようさうとまあるようらゞ国ま杖ほく老の身みて
ほゝめて筆を掛しまゝとて年月ゆゝ国ゆゝ出ゆゝふのやゆゝ見ゆゝまん
きいかゝいとて常のゆつゝ遊ゆゝ雑の焼ゆゝうゝゝゝゝゝ
すゆこゝろゝて年ゆゝたゝゝゝゝ叫ゝゝゝゝゝ
ゝ伝嫌の美ま弾ゝゝくゝをうゝゝのゝゝ
せゝゝふゝこゝひゝけゝゝゝ年みゝゝゝゝゝ
うゝゝ筆の掛ゝゝゝゝゝ

弘化五年戊申春竹稿妹上梓　八十一翁　山東菴

竹取物語十二編

けん
七夕

十二月
七夕

第二段
久しかりそ
なれにこそ
れと氏ものも
うえのけふ
ふるさとに
ふるるすま
ひとりとの
ものしらぬ
ひとりとの
ものしらぬ
ものしらぬ
ものしらぬ

竹取十二
さんどのつぎ話

竹取十二
宮之部
蓬井て人去

てうち右

その二

九ん目ろがま

てう去

京山作
豊國画

竹取十二編下巻

四段

つぎ
白 堀井若狭介
白 仁田四郎休
白 工藤左衛門尉
白 古浦少将泊

本陳
とめ

四段の二

あよ竹雅

おぢの雅
ちまさ

第五段
第六段

その二
きくまつ
あさち
あさうのまつ
えんハつぢや
やの文多
小安
きくまつ
ぎんさう
義妙

あさが
おさに

お袖

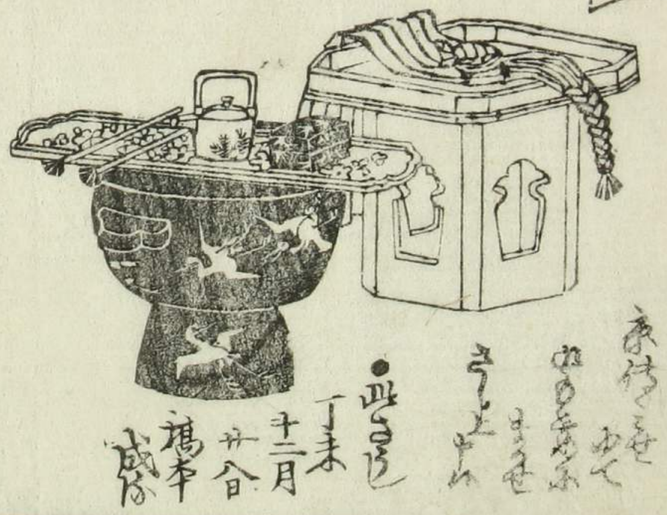
お枝
お袖

かぐや姫
右神

老翁
媼
竹九段

八十翁 京山作

豊國画



竹取十二編下終

源氏栄花ようの雅なるものとうたなる竹取物語の名を繁ひこ清水
周く梅若松若の枝をもて〳〵その下蔭の竹きく〳〵 鶴亀の筆
ほどなくあ〳〵天保八年酉の春なりしかば とうの取ところあれも
一あ〳〵ありとて梅若の匂ひつゆ〳〵の窓かくうゑし松若のこゞろ
十二年の門かぶりかぶりかぶ栄へ〳〵の梓ちのまぐまあさうとあらん
よりて梓もこの幸ひ作者のよろこびらかもさ〳〵けりあ〳〵も
もさ十二編をとて書ようかぶ花ゲあつ〳〵ふうちうる法さ〳〵ゲ
わかくようの物よりむとうのおりあ〳〵ろとすんあさ〳〵ふそ〳〵のく
そくの日限もせうけめらまそいてこうまさまぬ筆をそあゆと
旨久
更衣の日せう〳〵筆を拭ひふけり

嘉永三年 初夏稿本同初冬 八十二翁 山東菴京山
上梓発販

京都の富商
猿鳥屋後家
わ松
わ松が
一子
さる
徳太
京九白河吉田の
少将公達
梅若丸

忠
いが栗史
内小
甘味
ありなづ
仏の
石の
八郎
梅若丸の下奴
妻のおとんと
金
の
か
さ
赤馬の
仁平次
竹取
の
翁
養ひ
うる
なよたけ
ひめ
大内の官女
丹後の
局

竹取物語十三編ものがたり

第一段

丹後局泊

三
梅ごろ
梅ごろ
梅ごろ
梅ごろ
三
かくてえどのつぐみの
女中たち
四

三段

源氏物語をうめ紫式部が

四

めつひさうだ

竹むらのおくさまが
ひろひなる娘をよび竹

ころた

たき川

とうた

たさ川ゞ
ぬがさうを
多ぐ
まぎれぜん

たさ川

五段

ゑごのつぐ

たき川

ゆうぎり

たま川

なよ竹

京山作

國輝画

竹取物語十三編下巻

六段

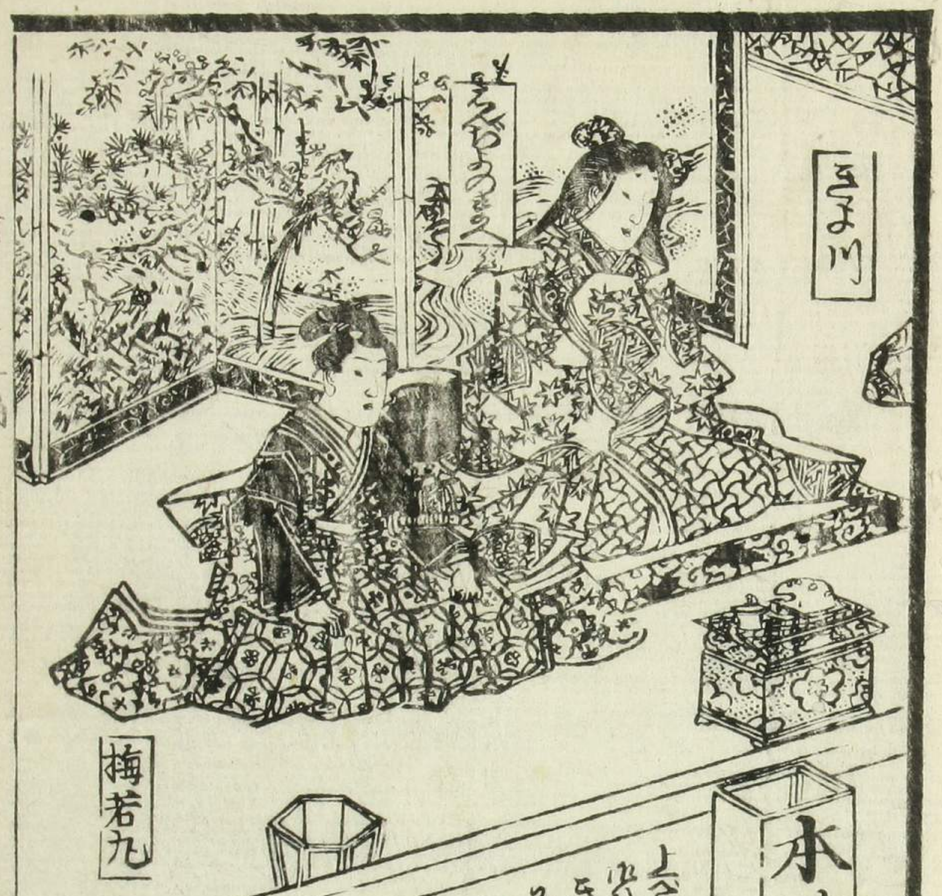
たゝとこやあるじ
さびのらうゆ

梅若ちのこ
やしけの八女

佐々木高綱

高雄文学大休

七段



本陳

八段

三郎
四
五
六
七

八
三
二

九段

梅若丸京をしたひむさの
ゝ川のやとりに
物太が
おまつ

惣太

小安

小安が
くわ竹

小安
惣太郎

あとけの
石の八仏

八仏
あるとん

仏の八仏

山田の三郎

十三味茶屋とすわるきうりん代百三十二せんいっぱいの
あとをさこそ日ごろ八文字のごとくにかんぜ玉のごとくにあ
そびいたまえ・ねりもの・やけどもちどもあるかぎり・こうまの
あるかの白牡丹百だ四せん・極上白ひあるかの雲のうえ
六十四せんあるかぎりあるかぎりの
ごう五十六せん・新せいあるかぎりあるかぎり
四十八せん・むだえもあるかぎりえどさの百せん
いっぱいどうさえもの牙あそ治さそ

八文

本文十段

さるやとあ八文のまい日よ円のうえ
いっぱいあるかぎりよりそかるまつ
えあけ日ごとにかぎりあかそ
かもかるかぎりうえ赤馬仁平治
八文ずつまあまんがあるとう
きとうとうきとうきとうるあんの
かるかあ油あそとうとうあ
ぶ・ごうよりのうえちゃ
うえて仁平治うえあるとうえ
のあるかんとうとうあ
「ごうとうあ房あんがるのあ
「うえとうとうとうのあるうえ

㊀仁平治うえ
いっぱいぐんちゃ

㊁世のうえちゃあるかぎりうんとうと仁平治
うえちゃあ十五両男ちゃとうとうあ
のあるんうとうと仁平治
ぶうのようかるうえ
あるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかぎり
あるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかぎり
あるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかぎり

十二段

山中熊五郎

十三段

わとけの八丈

梅若松美傳奇

竹取物語

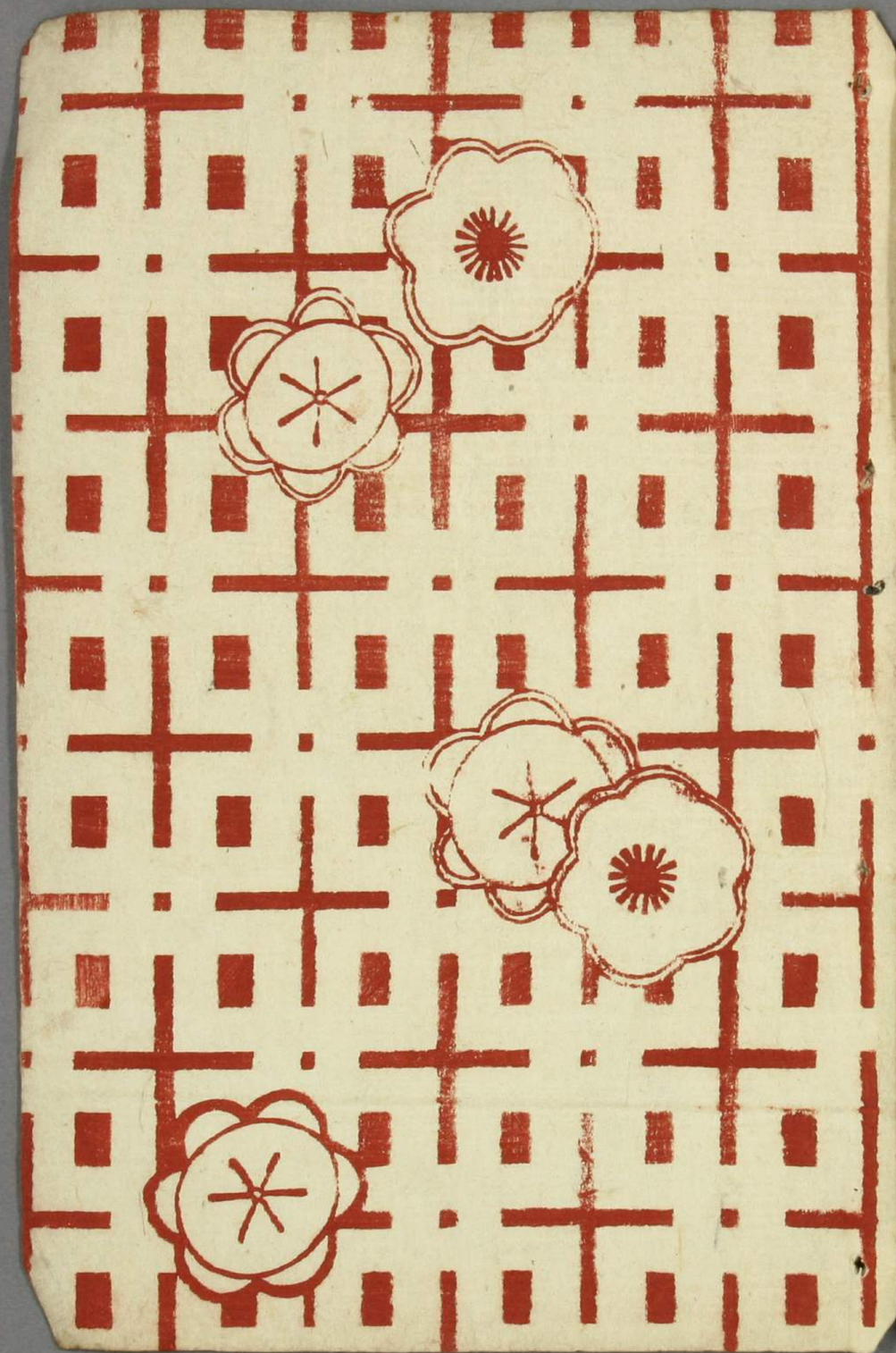
十二編上

京山老人作

歌川豊國画

幸安寿

森屋板



十三夜
月の下
夏好寿
作